

平成 30 年度 板橋区立美術館運営協議会 会議概要

開催日時	平成 30 年 11 月 9 日（金） 10 時 00 分から 11 時 30 分
開催場所	板橋区役所本庁舎 区長室会議室
出席者	16 人 [委員] 岸委員、榊原委員、佐藤委員、柴田委員、返町委員、 寺田委員、長田委員、松原委員 [区職員] 坂本区長、有馬区民文化部長、吉田文化・国際交流課長、 池田美術館長、松岡副館長、弘中学芸員、植松学芸員、山田学芸員
会議の公開 （傍聴）	<u>公開（傍聴できる）</u> 部分公開（部分傍聴できる） 非公開（傍聴できない）
傍聴者数	0 人
議題	1 報告事項 ① 平成 29 年度 事務実績報告 ② 美術館大規模改修について 2 審議事項 ① 2019（平成 31）年度 展覧会展示計画及び概要 ② 2019（平成 31）年度 展覧会内容 ③ 2019（平成 31）年度 教育普及事業計画
配布資料	① 平成 30 年度「板橋区立美術館運営協議会」次第 ② 平成 30 年度「板橋区立美術館運営協議会」委員名簿 ③ 平成 29 年度 事務実績（総括） ④ 2019（平成 31）年度 年間展示計画 ⑤ 2019（平成 31）年度 教育普及事業計画 ⑥ 休館中の他館への主な出品等 ⑦ 板橋区立美術館大規模改修について
所管課	区民文化部 文化・国際交流課 美術館 3979-3251

議事状況
(会議概要)

(司会：吉田文化・国際交流課長)

【区長挨拶】

【各委員紹介】

【会長挨拶】

寺田会長：それでは、議事に入らせていただく。まずは、平成29年度事務実績等活動状況について報告。

【報告事項】

(池田館長が資料の1頁から7頁に基づき、平成29年度事務実績を報告)

●実績報告質疑

委員：6、7ページの小学生美術鑑賞教室を積極的に行っているとのことですが、これは美術館だけでは当然難しいため教育委員会とかも絡むと思いますが、板橋区は学校教育の中に美術鑑賞講座というものが入っているのですか？

松岡副館長：入っていません。美術館から図工の先生と校長先生の両方に事前に展覧会の情報をお知らせし、美術館へ行くと言ってくれた学校と調整して行っています。美術館では子どもたちを連れてくる路線バスを借り上げる予算を、用意しています。実際学校の方も忙しくて、美術館に来るためにはいくつか授業を動かして調整して時間を作らなければなりません。それが今、特別講師を招いて行うような英語の授業とかが多くなっていて、そういったものは動かせないとか色々な問題があり、参加数はなかなか増えないけれども、図工部会という図工の先生の集まりに学芸員が定期的に行って、展覧会の見どころなどを図工の先生にレクチャーというか、ちょっとしたご案内やチラシを配ったりして来館していただけるような動機付けをしています。

委員：特に意見というわけではないのですが、インド・タラブックスの挑戦展を見せていただきましたが大変良かったです。実によく分かる順番というか、タラブックスのことがすべてよく分かるっていう、やっぱりその辺でリピーターも多くあったんじゃないかなと思います。こういうのは地味ですけど、やっぱり学芸員の努力と思いました。

池田館長：後半になるほど来館者数がどんどん増えまして、会期末は毎日1,000名を超えるほどの来館者数でした。また、SNSといったものによる拡散の影響も大きかったのではないかと思います。

寺田会長：次に、美術館大規模改修について。

(池田館長が資料「板橋区立美術館大規模改修について」に基づき説明)

委員：トイレの改修もされると思いますが、牛波の「泉」はどうなるのでしょうか？

池田館長：あの作品を再設置するよう図面に反映させていたのですが、施工事業者より取り外した後に、給排水溝が非常に難しい付け方をしてあったことにより、また

付けるとなるともしかしたら破損してしまうかもしれないと言われてまして、さすがにそれはまずいということで、今その辺の活用について学芸の方で協議しているという状況です。

委員：無くなってしまうかもということ？

池田館長：そうですね。今まで通り付けるといのは出来ません。

委員：板橋って最初に衝撃だったのは、逆の意味の衝撃で、美術品だったと思っていたものを今度は元に戻したかという衝撃の一点なんですけども、無くなってしまうかもしれないのですね。

松岡副館長：作家がああいう風にしてほしいということで、設置して、展覧会でやったものをそのまま残したという感じですけども。

委員：でも世界広しと言え、「泉」を元に戻したのはここだけじゃないですか。

松岡副館長：はい、館長も言いましたように、そのままにしたいと要望を出していたのですが、技術的に難しいということをつい数日前にと言われてまして、昨日まず作家の意向の確認を、どうやってアプローチしたら良いかという連絡をしました。

委員：ひょっとしたらあれが無くなっては困るのではないかと、あえて伺いました。

松岡副館長：あれは所蔵品になっているものですから、どうかたちで展示するかというのをこれから作家の方やご関係の方と検討して、まあ、トイレにそのままというのは難しいかもしれないですけども考えたいと思います。

委員：そうですか、(トイレで使われているというのが) 衝撃だったので残念です。

委員：事務局が美術館と別の場所に移動されて、常に(建物の)そばにいられないということがあると思うのですが、月一の金曜日の定例会議がありますが、なるべくその間に時間を作って見に行くということが大事なと思います。設計図とか話とかでイメージしていたものが実際はこうなっていたということを確認しないと出来た後にイメージと違っていたということになってはいけないので、使いやすいということを考えて、学芸員の方は労を厭わず何度も見に行ってほしいなと思います。

委員：カフェの常設ですが、障がい者の方を採用するということですが、とても良いことだと思います。どこかと提携されるのですか？

池田館長：色々な事業者や団体の方と打ち合わせしているのですが、うちの規模だとなかなか難しいという回答を頂いておりまして、その辺を含めてどのようにやっていこうかということを考えています。今、区の方でスマイルマーケットという庁舎の1階や高島平駅で障がい者の団体などが定期的に来て時間を区切って販売するという事業がありまして、もしかしたらそういったものを美術館でやってもらうのが現実的なのかなと。実はカフェの運営なんかもそういった団体などと協議させていただいたのですが、設備的なところがかなり必要になってくると経費的なところもうちで持ち出さなければいけないというところがありまして、検討中です。

【審議事項】

寺田会長：次に、2019（平成 31）年度展覧会、展示計画など概要について説明をお願いします。

（池田館長が資料 8 頁に沿って、2019（平成 31）年度展示計画概要を説明）
（引き続き、各担当学芸員及び館長が資料 9 頁～15 頁に沿って各展覧会の内容を説明）

●展覧会質疑

委員：佐藤太清展の特選作品のなかから各一点板橋区長賞が選ばれますが、これは選考委員会はどういった方がされるのですか？美術館の学芸員がするのですか？

池田館長：これは美術館の学芸員ではなくて、昨年で言いますと、大月委員と返町委員にお願いしておりまして、あと丸山芳子さんという区内在住の美術家を呼んでこの三人の方をお願いしていました。

委員：なるほど。では選考委員の方がいらっしゃるのですね。

館長：はい。

委員：区民文化祭って盛り上がっているのですか？

池田館長：そうですね。来館者数も 4000 人くらいで、あと区民書道展もすごく多くの作品が展示されていて賑わっています。

委員：いわゆるアマチュアでしょう？賞なんかもあるのですか？

返町委員：私も美術展に関係しているので。今グリーンホールというところでやっています。毎年美術館でやっているのですが、賞としては、10 人選びまして、一番最優秀が区長賞、その次が教育委員長賞、あと優秀賞が 8 人。分類が洋画、日本画、写真、工芸、彫刻と色々な分野を分散させてやるので、内容として多いのは洋画と写真が一番数として多いのですが、ただその数をどうやって分散させるかということが難しいです。日本画なんかは少ないから全体の中で 1 点しか選ばれなかったりするようなこともあります。難しいです。まあ、それなりのものが出ていますので、今年は来場者数が増えているような気がします。会場が美術館ではなくてグリーンホールで分散して 1 階と 6 階でわけてやっているものですから、ちょっと見づらいというのがあるのですが、駅から近いので人はむしろ入るかもしれません。

池田館長：書道展の方は年齢別で募集をかけています。

委員：やっぱり区民の生きがいというか、高齢化の中で皆健康になってもらって、大切ですよ。

寺田会長：池袋のパルコにある世界堂ってね、額縁のところちょっといったら高齢者の方たちがすごいね。額装するのをね。自分の作品を持ってきてはね。例えば絵手紙なんかも額装して、こういう形で区民文化祭とか応募して掛けてもらいたいんだよね。非常に熱心な方っていらっしゃるんだなと思いました。

委員：館蔵品展で「アヴァンギャルド画家たちの東京」とありますが、この間現在開催中の長谷川利行展、一人の画家を通して斬新な展覧会でした。ひとつの館の館蔵品を通してどこまで東京を画家たちの目を通したものがみられるのか？期待も持ちつつ、しかし館蔵品ということで限界もあるだろうと思います。どんなことをするのですか？

弘中：長谷川利行のように東京を描いたものも考えていますし、あとは東京の池袋モンパルナスや落合のアトリエ村などにいた画家たちがその時代の空気感を描いたりとか、プロレタリア美術や戦前から戦後にかけての作品を展示する予定にしているので、焼け跡や復興していく様子をどのように描いたのかということを紹介する展示にしたいと考えています。今回この展覧会をしようと考えたきっかけが、川越市美術館と館林美術館で行った当館のコレクション展が割と前衛的な作家の作品をまとめて他館で展示するという機会でしたので、そこから着想をもらうようなこともあり、準備をしています。

委員：この長谷川利行の水泳場はけっこう大きな作品ですよね？よく見つけましたね。雑誌でちょっと見たんですけどよく見つけたなと思ひまして。

弘中：前からお持ちのところは存じ上げておまして、以前も2011年の池袋モンパルナス展で当時の所蔵者の方からお借りしたことがあり、それ以前から当館の学芸の中では、あの作品良いよねということで狙っていた作品で、ご縁があって購入にこぎつけることができました。大きさもかなり大きいので今後の目玉の作品になるかと思ひます。

寺田会長：あの絵は僕は絶対どこかの美術館に入っていると思っていただけね。

松岡副館長：利行の作品は小さいものが多い中であれだけの大作で、しかも東京のどこを描いたのかははっきりしている作品を板橋区立美術館で持つことができたのは本当に大きなことだと思います。板橋区立美術館を信頼して購入させてくださったということに感謝しています。

委員：個別の展覧会の話ではないのですが、来年度ということでもないですが、例えば上野だと今2020年のオリンピックや外国人も多く訪れているのですが、外国人向けの企画や2020年に向けての企画が、板橋区でそういったものがあるのか、あるいは同じ東京の中なので、どこでそれを重点化っていうのはそれぞれやる必要もないような気もしますが、そういうので板橋さんの方で何か、あるいは板橋区内で外国の方の居住者が多いのか、よくわかりませんが、その辺何か企画であるのでしょうか？

松岡副館長：2020年に関しましてはかなり早い段階から我々は問題意識を持っておりまして、区立美術館を連携して、2020年に何かやろうという動きはございます。今、区立美術館連絡会議を3か月に1回持ち回りで様々な美術館でやっておりまして、中心になっているのは目黒区立美術館と板橋区立美術館なんですけれども、目黒で1回目をやって、世田谷で2回目、この間練馬で3回目をやりまして、2020年という風にしていくかという話をしております。ただ、いろいろな難しい問題もありまして、オリンピックのロゴマークや関連企画を出すといろいろな許可申請が必要

なので、それはできないかなということがあったり、あとは文化庁や東京都の動きが想定していたよりも遅く、それを待っているとこちらも動けなくなるので、そういうところと関係なく我々のネットワークで出来ることをやろうということで今検討しています。おおよその流れとしてはオリンピックイヤー全体の中でそれぞれのゆるやかなテーマを作って各館で同時多発的に展示をしようというような案が出ています。テーマといってもゆるっとした例えば「生活と美術」といったそのぐらいのレベルのもので、それをキーワードとして板橋では古美術の展示をし、目黒ではおもちゃや工芸品の展示をするというような方向になっておりまして、私どもとしては板橋区立美術館で所蔵している狩野派を中心とした古美術の作品を、以前やった座敷空間のようなものを作って展示をして、日本の生活の中で美術品が使われていた様子などを体験していただけるようなことを所蔵品を使ってやればなと思っております。当然、外国語対応もテーマとなっております。様々な技術的なこともこれから開発が進んできて使いやすいものも出てくるんじゃないかなという期待を込めて区美術館で連携を取りながら進めているところです。

委員：オリンピックの文化プログラムとは別途に美術館で連携しているということですか？随分前から文化芸術プログラムというものを全国的に募集していて、それに協賛する企画に対してはどのくらい分かりませんが、財政的にしかるべき位置づけと何らかの手当てがあると理解していましたが、東京都内の公立の美術館のネットワークはそのプログラムに入ったりというのは？

松岡副館長：助成金を応募しましたが落ちました。

吉田課長：意外と東京 2020 の文化プログラムというのは、実際にはお金を出さず出さないは結構シビアで、お金を出さないけど各自治体で頑張るのであれば、お金をかからない支援はするよというスタンスが、極端に言えばそういう印象がありました。

委員：祇園井特展ですが、板橋区立美術館は目の付け所がうまいなと思うのですが、ある程度まとまったコレクションがあるのですか？

植松：吉川親方コレクションがありまして、それが今京都の文化博物館の管理と九州の福岡にありまして、それで 50～60 点までに行かないけどそれに近い数があり、あと個人コレクターの方もいるので、展覧会に足る数は集まりそうです。

委員：雑談ですが、絹谷幸二さんの美術館が大阪の駅前にできました。部屋に入ると絹谷先生の作品が 3D で迫ってくるわけです。東京都美術館でも映像でバベルの塔の中に入って行くという、今そういうのが美術館に取り入れられていると思います。板橋の場合は格調が高く、そういったものは自分たちで感じてもらうもののだと思うのですが、そういったものを時代の流れの中で考えても良いのではないかと思います。

寺田会長：今美術館は集客っていうものが多いのですか？

松岡副館長：この数年来、両極化していると思います。大きなお金をかけて宣伝して行列ができるようなものと、地道に館でやらなきゃいけない地域の作家を掘り起こしてお客さんが入らないものと、両極化しています。中間規模の展示が最近少なく

なってきたように思います。特に新聞社はお金が減ってきています。昔は新聞社は社会貢献と言っていましたが、いまはそれで儲けなきゃいけなくなりました。余計大きなものを大きく作って儲けるという流れができてしまっています。

寺田会長：だとしたら、板橋区立美術館がオリジナルカラーというか、ポローニャ、モンパルナス、狩野派という三本柱を強力にやっていって生き残るとするのは、そういうことだね。

松岡副館長：その三つのシリーズというのをずっとやり続けている、シリーズで展開している美術館というのは意外に少なく、板橋の三つの柱はかなりはっきりしていて、あり方検討のときもそれをそのままやるという指導をいただきましたので、その通りでやっていきたいと思います。

委員：プーシキン美術館の図録をみて、今年プーシキンで江戸絵画、パリでもスイスでも江戸絵画の展覧会がありましたよね。欧米の方で日本美術大好きという方はこっちはオフィシャルだけど、向こうの方ではそうでもないというカテゴリーだったのが、表面立って今年新しい動きに見えたのですが、プーシキンでの反応の質というのは、人がたくさん入ったというのはわかるのですが、反応はどうでしたか？

松岡副館長：プーシキンでは大変な盛り上がりで内覧会ではロシアで閣僚級の方が副首相も含め3名おりましたし、日本からも文化庁長官や東京国立博物館館長、日本の大使がお見えになりました。その日内覧会では「日本の秋」というドレスコードがあり、内覧会参加者で着物を着た人は多くいました。ロシアの方が自由に着物を着崩したり、日本っぽいものを身に着けたりしていました。作品を見ながら日本のことや日本に行ったときに着物を買ったという話をしていました。作品そのものに対しても関心が高く、図録がオープンして2～3週間で売り切れました。そして増刷しました。

委員：今の話を聞くと浮世絵など「モノ」に関心のあった客が、今だと日本に行った観光体験がこういうのにつながる背景になっているのですか？

副館長：繋がっていると思います。内覧会に来た人は、仕事や観光で日本に行った人が多かったです。日本美術についても初めて見るということではなく、この浮世絵しているというように関心を持って見られていました。欧米の美術館では多いのですが、この展覧会では全作品写真撮影が可能だったので、みなさんよく写真を撮って楽しんでいらっしゃいました。街の中にも広告が随分出ていて、プーシキン美術館側としては非常に満足されているのではないかと思います。

寺田会長：写真を撮ったというけれども、いろいろな美術館でいわゆる「インスタ映え」という、撮ってネットにあげて拡散してヒットしたりしますね。撮影禁止のものはあるけれども、撮れるものは撮らせてあげて良いのではないかと今かなりゆるいでしょう？割と撮影できる作品も多いでしょう？

松岡副館長：そうですね。人によって考え方も違って、作家やご遺族の方の意向があったり、日本の美術館は狭いので、お客さん同士のトラブルや神経質なお客様も多くて、音がうるさいと言う人もいます。その辺をどうクリアしていくのか今試行錯

誤っていて、大きな展覧会だと全作品撮れるのではなくて、最後にこの作品を撮って良いですよというコーナーがあるところは最近多いですね。板橋区立美術館では古美術の所蔵品展はかなり前から撮影可能にしています。

委員：区立小中学校作品展の内容は、学校にお任せしていますか？

池田館長：全てお任せしております。場所を学校ごとに区切り、その中は学校にお任せしています。

委員：他の展覧会の内容と大きく違うところですね。

池田館長：運営は、教育委員会や教育会図工研究部などが行っています。

委員：学校側のやる気はどうですか？

池田館長：力が入っています。学校の規模によりますが、小さい学校だと全員の作品、大きい学校だと作品を選定していますが、各学校非常に良い作品が揃っています。

寺田会長：去年はどのくらい作品を新規購入しましたか？

松岡副館長：近現代は4点、古美術は6点です。今後も継続して購入したいと考えております。

寺田会長：次に、2019（平成31）年度教育普及事業計画について説明をお願いします。

（松岡副館長が資料16頁に沿って、2019（平成31）年度教育普及事業計画を説明）

●教育普及事業質疑

委員：技法講座の「初めて描くことに取り組む人向け」ですが、子どもたちが本当に初めて描く際は放っておいても絵を描くので、もう少し言葉を慎重に使っていただきたい。ここに何らかの状況を付けるなどして、例えば「初めて本格的に鉛筆画に取り組む」などとしてはいかがか。意味は分かるが、名称に違和感を感じました。

寺田会長：そのほか、全体にわたってご意見は。

寺田会長：それでは他にはないようなので、これで平成30年度板橋区立美術館運営協議会を終了する。

[閉 会]

会議の概要は、以上のとおりである。

平成 30 年度板橋区立美術館運営協議会次第

日時:平成 30 年 11 月 9 日(金)

午前 10 時

場所:本庁舎区長室会議室

- 1 開 会 司会:文化・国際交流課長

- 2 区長挨拶

- 3 各委員紹介

- 4 会長挨拶

- 5 議 事
 - (1) 報告事項 (美術館長)
 - ①平成 29 年度事務実績報告
 - ②美術館大規模改修について

 - (2) 審議 (美術館長)
 - ①2019(平成 31)年度展覧会展示計画及び概要 (美術館長)
 - ②2019(平成 31)年度展覧会内容 (各担当学芸員)
 - ③2019(平成 31)年度教育普及事業計画 (美術館副館長)

 - (3) その他

- 6 閉 会

平成 30 年度「板橋区立美術館運営協議会」委員名簿

(五十音順)

氏名	現職等	専門分野
大月 ヒロ子	(有)アイデア代表取締役 ミュージアムエデュケーションプランナー	教育普及
岸 ユキ	画家・女優	現代美術
榑 原 悟	岡崎市美術博物館・おかざき世界子ども 美術博物館館長	古美術
佐藤 道信	東京藝術大学美術学部教授	美術評論 (現代美術)
柴田 和豊	東京学芸大学名誉教授	美術教育論
返町 勝治	板橋区美術家連盟代表	美術家
谷田 剛一	(株)タニタハウジングウェア 取締役相談役	産業文化
寺田 農	池袋アトリエ村関係者	企画・運営
長田 謙一	名古屋芸術大学大学院 美術学部教授	西洋美術・芸術学
松原 茂	(公財)根津美術館 学芸部長	古美術 (日本書画史)

任期:平成 29 年 11 月 1 日～2019(平成 31)年 10 月 31 日

平成29年度事務実績（総括）

1. 展覧会観覧者数

29年度		28年度		27年度	
8本	58,095	8本	59,049	8本	44,619

2. 教育普及事業参加者数

(1) 展覧会にかかる講演会・イベント等

29年度		28年度	27年度
講演会	1,200	775	755
イベント	556	518	719
計	1,756	1,293	1,474

(2) 各種技法講座・教室・各アトリエ *印は小学校美術鑑賞教室を再掲

29年度		28年度		27年度	
42回	1,432	43回	1,643	43回	1,433
*8校9回	676人	*10校	814人	*7校	575人

3. 自主サークル支援事業参加者数

29年度		28年度	27年度
アトリエ	1,777	1,553	1,723
講義室	0	156	531
計	1,777	1,709	2,254

4. 入館者数合計（1+2+3）

29年度	28年度	27年度
63,060	63,694	49,780

区人口 10月1日 565,782 11%

平成29年度 美術館展覧会観覧者数

展覧会名	期 間	開館日数	観覧者数	内 訳			うち招待免除	1日平均	観覧料
				小・中	高・大	一般			
(館蔵品展) 絵画は告発する	4月8日 から 6月18日	62 日	3,517	158	111	3,248	/	57	無料
2017イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展	7月1日 から 8月13日	38 日	7,881	1,442	460	5,979	2,925	207	有料
(館蔵品展) 江戸の花鳥画	9月2日 から 10月9日	33 日	3,959	184	122	3,653	/	120	無料
「区民文化祭」	10月18日 から 11月12日	19 日	5,071	780	191	4,100	/	267	無料
インド・タラブックスの挑戦展	11月25日 から 1月8日	34 日	18,172	1,283	505	16,384	3,448	534	有料
「区立小・中学校 作品展」	1月16日 から 2月18日	28 日	14,308	7,037	90	7,181	/	511	無料
第16回佐藤太清記念 中学生絵画展	2月22日 から 2月15日	4 日	184	32	9	143	/	46	無料
池袋モンパルナスとニシムイ美術村展	2月24日 から 4月15日	44 日	5,003	95	109	4,799	1,097	114	有料
	/	262 日	58,095	11,011	1,597	45,487	7,470	222	/

平成29年度 教育普及事業実績

1 講演会

No.	日付	テーマ及び講師	参加人員	展覧会名
1	6月10日	講演会「絵画に託されたメッセージを読み解く」 大谷省吾(東京国立近代美術館美術課長)	80	絵画は告発する
2	7月1日	講演会「ボローニャ展入選者たちに聞く」 綾野本汰、オオノ・マユミ、コクマイトヨヒコ、古郡加奈子、 山本まもる、渡辺アンヤラット	70	2017イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展
3	7月8日	講演会「イタリア人と日本人、絵本をどう料理する? フェージョン絵 本の制作過程」 ガブリエレ・レバリアーティ(麗澤大学講師)	80	
4	7月9日	講演会「20世紀の美術館建築」 山名善之(東京理科大学教授)	40	
5	7月15日	講演会「『ぼーるとぼくとくも』と一緒に、ボローニャブックフェアへ 行ってみた!」 加藤休ミ(クレヨン絵本作家)、兼森理恵(らいおんbooks編集部)	40	
6	7月22日	講演会「初受賞で初海外」 ヨシタケシンスケ(絵本作家)、若月眞知子(ブロンズ新社代表)	100	
7	7月30日	講演会「ぼくの仕事」 スティーヴン・グアルナッチャ(イラストレーター、デザイナー)	100	
8	8月12日	講演会「2017ボローニャブックフェア総復習」 広松由希子(絵本評論家)、当館学芸員	50	
9	9月23日	講演会「江戸の花鳥画を『読む』愉しみ」 今橋理子(学習院女子大学教授)	101	
10	11月25日	講演会「タラブックスの本づくり -出版社ができること-」 ギータ・ウォルフ、V・ギータ(ともにタラブックス代表)	122	世界を変える美しい本 インド・タラブックスの 挑戦
11	12月2日	講演会「タラブックスの取材から -人・モノ・本-」 松岡宏大(カメラマン・ライター)、野瀬奈津子(編集者・ライター)	130	
12	2月24日	講演会「沖縄・ニシムイ美術村と画家たち」 前田比呂也(沖縄県立博物館・美術館 前美術館副館長)、 豊見山愛(// 主任学芸員)	60	東京⇔沖縄 池袋モンパ ルナスとニシムイ美術村
13	3月10日	講演会「落合・池袋・ニシムイ 子どもたちの見たアトリエ村」 寺田農(寺田政明ご子息/俳優)、松本莞(松本竣介ご子息/建築 家)、安次富隆(安次富長昭ご子息/プロダクトデザイナー)	120	
14	4月14日	講演会「時空を横断する画家たち 東京⇔沖縄、1930年代から70 年代へ」 小沢節子(近現代史研究者)	107	
合 計			1,200	

2 イベント・ギャラリートーク・ワークショップ

No.	イベント名	内容・講師及び会場	実施月日	参加人員	開催展覧会
1	ギャラリートーク	当館学芸員によるギャラリートーク	4月8日	30	絵画は告発する
2			5月6日	38	
3			親子で楽しむ ギャラリートーク	4月15日	
4	レセプション	2016イタリアボローニャ国際絵本原画展開催	7月1日	75	2017 イタリア・ボ ローニャ国際 絵本原画展
5	一時保育	子どもを預けながら、展覧会を楽しむ	7月6日	3	
6	ギャラリートーク	当館学芸員によるギャラリートーク	9月9日	38	江戸の花鳥画
7			9月16日	21	
8			9月30日	29	
9			10月7日	38	
10	レセプション	インドタラブックスの挑戦展開催	11月25日	121	インド・タラブッ クスの挑戦
11	ギャラリー(スライド)トーク	当館学芸員によるギャラリートーク	3月3日	25	東京⇔沖縄 池 袋モンパルナ スとニシムイ美 術村
12			3月17日	35	
13			3月24日	52	
14			3月31日	38	
合 計				556	

3 技法講座・教室・各アトリエ

No.	事業名	内 容	講 師	実施回数	延人員
1	技法講座 「自分の色を見つけ て絵画作品を作ろう」	色彩について学びながら水彩絵の 具、アクリル絵の具など様々な方法 で用いて絵を描く。	山本晶 (画家)	5月13日、20日、27日、 6月3日、10日 (全5回)	68
2	鑑賞講座 「江戸美術を 行って見る」	板橋区立美術館の美術コレクション や作家にまつわる場所に実際に 「行って見る」ことで、当館の作品や その時代を退館する。	当館学芸員 田口文哉 (大宮盆栽美術館) 河野元昭 (静嘉堂文庫美術館)	10月1日、8日、 11月5日 (全3回)	69
3	集中講座 「夏のアトリエ」	イラストレーターを対象に絵本製作 に関して総合的・専門的な指導を 行う。	スティーヴン ・グアルナッチャ (イラストレーター・デザイ ナー)	7月25日～29日 (全5回)	103
4	ワークショップ 「虫ずかんを作ろう」	コラージュ技法で様々な虫を作って ノートに貼り、虫ずかんをつくる。	アドルフオ・セラ (イラストレーター)	7月16日 (全1回)	37
5	ティーンズ 絵本のアトリエ	絵本を作ってみたい中・高生に向 けた講座。	宮崎詞美 (絵本作家・横浜美術 大学准教授)	8月3日、10日 (全2回)	9
6	しかけ絵本を作ろう	小学生を対象に、絵・お話・しかけ などを組み合わせて、自分だけの 絵本を3回で一冊作る。	岡村志満子 (グラフィックデザイナー)	8月8日、9日、11日 (全3回)	38
7	夏の教室	絵本の魅力をより深く知り、多様な 面から絵本と接してみたいという方 のための連続講座。	広松由希子(絵本評論 家)、きたむらさとし(絵本 作家)、佐々木紅(福音 館書店編集部)、土居安 子(児童文学財団専門 員)、村山純子(エディト リアルデザイナー)、児島なおみ (絵本作家)	8月4日、5日 (全2回)	76
8	ひよこ・たぬき アトリエ	幼児(3歳)から小学生がさまざまな ジャンルのアーティストによる指導 のもと親子で楽しみながら造形体 験をするワークショップ。	白石顕子(画家)、むらか みひとみ(絵本作家)、加 藤休ミ(クレヨン絵本作 家)、木下令子(画家)、 ギーター・ウォルフ(タ ブックス出版代表)、おかむらし まこ(絵本作家)	6月11日、7月2日、 8月6日、10月8日、 11月26日、12月10日 (1日2回×全6日＝ 全12回)	356
9	小学生 美術鑑賞教室	小学生が美術館を訪れ、美術作品 を実際に見ることで、興味を引き出 し、作品の美しさや面白さを体感で きる機会とする。	当館学芸員	4月～3月 (計9回)	676
合 計					1,432

4 小学生美術鑑賞教室

No.	イベント名	内容・講師	実施月日	参加人員	開催展覧会
1	小学生鑑賞教室 (緑小)	内容:小学生が美術作品を美術館で 実際に見ることで、興味を引き出し、 作品の美しさや面白さを感じる機会と する。 講師:当館学芸員	6月28日	74	2017イタリア・ ボローニャ国際 絵本原画展
2	小学生鑑賞教室 (板橋第一小)		6月29日	72	
3	小学生鑑賞教室 (上板第四小)		6月30日	68	
4	小学生鑑賞教室 (舟渡小)		7月5日	53	
5	小学生鑑賞教室 (赤塚小)		7月10日	107	
6	小学生鑑賞教室 (舟渡小)		11月28日	60	インド・タラブッ クスの挑戦展
7	小学生鑑賞教室 (向原小)		12月15日	28	
8	小学生鑑賞教室 (志村第四小)		12月22日	103	
9	小学生鑑賞教室 (志村第四小)		12月22日	111	
		合 計	676		
		(内訳)	児童	642	
			引率	34	

小学生(4・5・6年生)美術鑑賞教室実績

平成29年度

	展覧会名	実施期間	参加 校数	実施 回数	参加人員	参加校名
1	2017イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展	6・7月 5日間	5	5	374	緑・板一・上四・舟渡・赤塚
2	インド・タラブックスの挑戦 展	11・12月 3日間	3	4	302	舟渡・向原・志四
	合 計		8	9	676	

平成28年度

	展覧会名	実施期間	参加 校数	実施 回数	参加人員	参加校名
1	2016イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展	6・7月 4日間	4	4	370	緑・三園・赤塚・下赤塚
2	よりぬき長谷川町子展	9・10月 2日間	3	3	154	板橋第一・中台・弥生
3	長崎版画と異国の面影	3月 3日間	3	3	290	志村第四・上板第二・志村第一
	合 計		10	10	814	

平成27年度

	展覧会名	実施期間	参加 校数	実施 回数	参加人員	参加校名
1	2015イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展	6・7月 4日間	5	5	434	志村第一・緑・板橋第一・ 志村坂下・赤塚
2	まあ！オモシロ江戸屏風	9・10月 2日間	2	2	141	上板第四・志村第四
	合 計		7	7	575	

2019(平成31)年度 年間展示計画(案)

会 期	展 覧 会 名	概 要	料 金												
6月29日(土) ～ 8月12日(月祝) 39日間	リニューアルオープン・開館40周年 記念 2019イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展	今回で開催53回目を迎えるイタリア・ボローニャ市で毎年開催されている世界最大の規模を誇る絵本原画コンクール。世界中の新人イラストレーターの登竜門とされている国際コンクールの入選作品を展示します。板橋では39回目を迎えます。また、恒例の展覧会の中で、美術館の新装開館を記念する企画展示も行います。	有料												
8月31日(土) ～ 10月6日(日) 32日間	館蔵品展 近現代 「アヴァンギャルド画家 たちの東京」(仮)	板橋区立美術館では開館以来、池袋モンパルナスや地元板橋ゆかりの作家の作品を中心に収集、研究、展示を行ってきました。今回は2017年に購入した作品を中心として、コレクションの中でも前衛的な表現の作品を中心にご紹介します。	無料												
10月16日(水) ～ 11月10日(日) 19日間	区民文化祭	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">美術家作品展</td> <td style="width: 20%;">[10/16～10/20]</td> <td style="width: 30%;">5日</td> </tr> <tr> <td>書家作品展</td> <td>[10/23～10/27]</td> <td>5日</td> </tr> <tr> <td>区民美術展</td> <td>[10/30～11/ 3]</td> <td>5日</td> </tr> <tr> <td>区民書道展</td> <td>[11/ 7～11/10]</td> <td>4日</td> </tr> </table>	美術家作品展	[10/16～10/20]	5日	書家作品展	[10/23～10/27]	5日	区民美術展	[10/30～11/ 3]	5日	区民書道展	[11/ 7～11/10]	4日	無料
美術家作品展	[10/16～10/20]	5日													
書家作品展	[10/23～10/27]	5日													
区民美術展	[10/30～11/ 3]	5日													
区民書道展	[11/ 7～11/10]	4日													
11月23日(土) ～ 1月13日(月祝) 43日間	「向き合うデザイン 駒形克己展」(仮)	板橋区立美術館とも関係の深い駒形克己氏のこれまでの歩みを振り返る初めての展覧会。アメリカ時代の作品も含め、初公開資料多数。	有料												
1月21日(火) ～ 2月23日(日) 28日間	区立小・中学校 作 品 展	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">中学校作品展</td> <td style="width: 20%;">[1/21～2/ 2]</td> <td style="width: 30%;">12日</td> </tr> <tr> <td>小学校児童作品展(前期)</td> <td>[2/ 5～2/13]</td> <td>8日</td> </tr> <tr> <td>小学校児童作品展(後期)</td> <td>[2/15～2/23]</td> <td>8日</td> </tr> </table>	中学校作品展	[1/21～2/ 2]	12日	小学校児童作品展(前期)	[2/ 5～2/13]	8日	小学校児童作品展(後期)	[2/15～2/23]	8日	無料			
中学校作品展	[1/21～2/ 2]	12日													
小学校児童作品展(前期)	[2/ 5～2/13]	8日													
小学校児童作品展(後期)	[2/15～2/23]	8日													
3月6日(金) ～ 4月5日(日) 27日間 (H29 22日 H30 5日)	キオンセイトク 「祇園井特展」(仮)	江戸時代後期の京都で活躍した絵師・祇園井特(ぎおんせいとく)を取り上げる、初めての本格的な展覧会を行います。本展では、井特が最も得意とした美人画や、本居宣長などを描いた肖像画などを中心に展示します。	有料												
2月6日(木) ～ 2月9日(日) 4日間 成増アクトホール	佐藤太清記念 中学生絵画展	佐藤太清記念青少年美術奨励基金条例に基づき、全国の中学生の絵画作品を広く公募し、展示。また京都府福知山市が全国の高・大学生から公募した絵画作品の巡回展を同時開催します。	無料												

「2019 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

趣 旨 イタリア・ボローニャのブックフェアで開催される絵本原画の国際コンクールの入選作品約 500 点を展示します。毎年日本人の活躍も注目されている本展は、出版・未出版に関わらず審査の対象とされるため、新人作家の登竜門としての役割も果たしています。当館では 1981 年から毎年開催し、今回で 39 回目となりますが、今回は美術館建物の大規模改修終了後の最初の展示として開催します。

会 期 2019 年 6 月 29 日（土）～8 月 12 日（月祝）〔39 日間〕
（月曜休館、但し 7/15、8/12 は開館し、7/16 は休館）

主 催 板橋区立美術館、 社団法人 日本国際児童図書審議会（JBBY）

観 覧 料 有 料 一般 650 円、高・大生 450 円、小・中生 200 円
土曜日は小・中・高校生は無料
（20 名以上団体割引、65 歳以上高齢者割引、障がい者割引あり）

教育普及事業

- ・小学生鑑賞教室
- ・小学生向けワークショップ
- ・本格的に絵本作家を目指す人のためのサマーセミナー「夏のアトリエ」
- ・展覧会鑑賞者のための一時保育サービス
- ・一般向けの講演会

展示点数 イラストレーション 約 500 点程度、絵本 40 冊

巡回予定

西宮市大谷記念美術館	8 月 17 日(土)～9 月 23 日(月)
石川県七尾美術館	11 月 2 日(土)～12 月 8 日(日)
太田市立美術館図書館	12 月 14 日(土)～1 月 19 日(日)

その後、韓国と中国に巡回予定

館蔵品展

「アヴァンギャルド画家たちの東京」(仮)

趣 旨 板橋区立美術館では開館以来、池袋モンパルナスを中心とする地域に集ったアヴァンギャルド画家の作品を収集、展示しています。なかでも寺田政明や井上長三郎といった画家たちは昭和初期から戦争を挟む時代においても前衛精神を持ち、描き続けました。本展では2017年度に新たに購入した、彼らの仲間である長谷川利行《水泳場》(1932年)、野田英夫《上野山下風景》(1938年)、《車内》(1938年)、麻生三郎《女》(1944年)が展示の核となります。板橋区立美術館のリニューアルオープンと開館40周年を彩る、近代美術コレクションの特色を活かした展覧会です。

会 期 2019年8月31日(土)～10月6日(日) [32日間]
(月曜休館、但し9/16、23は開館し、9/17、24は休館)

主 催 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

関連イベント 講演会1回、ギャラリートーク

展示点数 油彩画、デッサン、美術資料、他、約90点。

「区民文化祭」

趣 旨 広く区民の美術・書道の普及、発展を図るため、区民参加による
展覧会を開催します。

会 期 2019年10月16日(水)～11月10日(日) [19日間]

(1) 美術家作品展 10月16日(水)～10月20日(日) [5日間]

(2) 書家作品展 10月23日(水)～10月27日(日) [5日間]

(3) 区民美術展 10月30日(水)～11月3日(日) [5日間]

(4) 区民書道展 11月7日(木)～11月10日(日) [4日間]

主 催 板橋区

共 催 板橋区文化団体連合会、板橋区書道連盟、板橋区美術家連盟、
(公財)板橋区文化・国際交流財団

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

「向き合うデザイン 駒形克己展」(仮)

趣 旨 幼児向けの「リトル・アイ」シリーズやボローニャ国際児童図書ラガッツィ賞受賞作『リトル・ツリー』をはじめとする、豊かなコミュニケーションの可能性に満ちた絵本づくりで知られる、デザイナー・駒形克己の初めての全貌展示です。。日本デザインセンターでキャリアをスタートさせた駒形は、米ニューヨークのCBSでアートディレクタデザイナーとして経験と研鑽を重ねたのち、国内で広告やCIなどのグラフィックデザイン、多彩な絵本づくり、さらにはワークショップやブランディングに至る、さまざまなデザインに取り組んできました。本展は、約40年にわたって駒形が残してきたデザインワークと、現在進行中の新たなプロジェクトを、ドローイングやプロトタイプ、デザイン作品、映像やインスタレーションを通じて紹介する内容です。

会 期 2019年11月23日(土)～2020年1月13日(月) [39日間]
(月曜、年末・年始休館、但し12/23、1/13は開館し、12/24は休館)

主 催 板橋区立美術館

観 覧 料 有 料 一般650円、高・大生450円、小・中生200円
土曜日は小・中・高校生は無料
(20名以上団体割引、65歳以上高齢者割引、障がい者割引あり)

教育普及事業 記念講演会、ワークショップ

関連イベント 都内・近郊の書店にて、駒形氏の書籍を使ったコーナー設置し、
展覧会の告知を図る

展示点数 ポスター、カード、書籍、イラストレーション原画、約200点程度、
絵本50冊程度

※巡回予定 現在調整中

「区立小・中学校作品展」

趣 旨 小・中学校における書道・美術・図工学習の成果を展示し、広く
区民に鑑賞の機会を設けます。

会 期 2020年1月21日（火）～2月23日（日）〔28日間〕（予定）
（月曜休館）

(1) 中学校美術展・書き初め展

1月21日（火）～2月2日（日）〔12日間〕（予定）

(2) 小学校児童作品展（前期）

2月5日（水）～2月13日（木）〔8日間〕（予定）

※会期中 学校鑑賞日 5日間（予定）

(3) 小学校児童作品展（後期）

2月15日（土）～2月23日（日）〔8日間〕（予定）

※会期中 学校鑑賞日 4日間（予定）

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

実施団体 板橋区教育委員会
板橋区立中学校教育研究会
板橋区教育会
板橋区立中学校教育研究会国語科研究部
板橋区立中学校教育研究会美術科研究部
板橋区教育会書写研究部
板橋区教育会図工研究部

ぎおんせいとく
「祇園井特 展」(仮)

趣 旨 江戸時代後期の京都で活躍した絵師・祇園井特（1755?～?）を取り上げる、初めての本格的な展覧会を行います。井特は、祇園の芸妓などをモデルとした美人画を数多く描いたことで知られています。その艶やかでぬめりのある面貌表現は、同時代の美人画とは一線を画すものです。一説には、祇園の青楼井筒屋の主人徳右衛門という名に因んで「井特」と称したとも、あるいは祇園で珍器売薬商を営んだとも伝えられますが、その生涯は多くの謎に包まれています。本展では、井特が最も得意とした美人画や、本居宣長などを描いた肖像画などを中心に展示します。江戸時代の京都画壇において異彩を放った井特作品の、生々しいほどに写実的で個性溢れる表現をご堪能ください。

会 期 2020年3月6日（金）～4月5日（日） [27日間]
（月曜休館）

主 催 板橋区立美術館、東京新聞

監 修 安村敏信（元板橋区立美術館長・萬美術屋）

観 覧 料 有 料 一般650円、高・大生450円、小・中生200円
土曜日は小・中・高校生は無料
（20名以上団体割引、65歳以上高齢者割引、障がい者割引あり）

関連イベント 講演会、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室

展示内容 屏風、掛軸など約60点

「佐藤太清記念中学生絵画展」

趣 旨 青少年の美術教育の一層の充実を図るため、佐藤太清青少年美術励基金条例に基づき、全国の中学生の絵画美術作品を広く公募し、「佐藤太清記念 中学生絵画展」を開催します。2019年度で第17回目の開催となります。

また、京都府福知山市が全国の高校生・大学生から公募した絵画作品を展示する「佐藤太清賞公募美術展」の巡回展を同時に開催します。

展示構成 「中学生絵画展」 (中学生) 42点程度
・佐藤太清賞 1点
・板橋区長賞 1点
・特選 10点程度
・入選 30点程度

※それぞれに賞状と記念品を授与します。

「佐藤太清賞公募美術展」-福知山市分- 67点程度
・絵画の部 (高校生)
佐藤太清賞 3点
特選 9点程度
入選 29点程度
・日本画の部 (大学・専門学生)
佐藤太清賞 1点
特選 3点程度
入選 24点程度

※特選作品の中から各1点に板橋区長賞を授与します。

会 期 2020年2月6日(木)～2月9日(日) [4日間]
主 催 板橋区立美術館
会 場 成増アクトホール
協 力 京都府福知山市
観 覧 料 無 料

2019（平成 31）年度教育普及事業

一般向け美術技法講座・教室

講 座 名	内 容	回数
行って見る 古美術	板橋区立美術館内の講演会と、他館の見学で構成された講座。「祇園井特展」に合わせて企画。	3
行って見る 近現代	板橋区立美術館内の講演会と、他館の見学で構成された講座。「アヴァンギャルド画家たちの東京展」に合わせて企画。	3
技法講座	初めて描くことに取り組む人向けに手近な材料で鉛筆画に取り組む	3
技法講座	様々な技法について学び、実際に体験してみる。	2

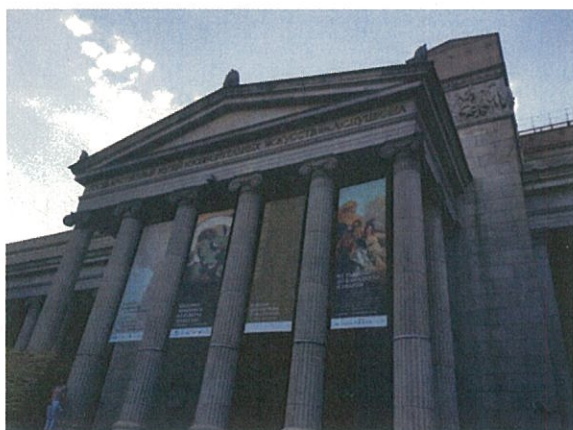
子ども対象事業

講 座 名	内 容	回数
ひよこ・たぬきアトリエ	3歳から小学生の家族対象。アーティストとともに親子で造形体験をする。	1 2

休館中の他館への主な出品等

1. 「江戸絵画名品展」(於ロシア・プーシキン美術館) に出品

平成 30 年度は「ロシアにおける日本年」であることを受け、9 月 4 日から 10 月 28 日まで、文化庁主催の「江戸絵画名品展」がロシアのプーシキン美術館で開催されました。東京国立博物館や千葉市美術館といった日本を代表する美術館の作品とともに、板橋区立美術館所蔵の作品も 7 点出品しました。本展覧会はロシア国内でも注目され、9 月 3 日の内覧会では通常より多くのマスコミ陣が訪れるなど、華やかに幕開けとなりました。会期最終日には 4 時間 30 分待ちの行列ができ、約 13 万人の来館者を動員しました。



プーシキン美術館外観



当館の作品を熱心にご覧になる様子



プレス内覧会



美術館の外まで長蛇の列

《出品作品》

- ・狩野探幽「富士山図屏風」
- ・狩野尚信「大原御幸 富士見西行図屏風」
- ・狩野常信「四季花鳥図屏風」
- ・狩野永叔「表：梅桜小禽図屏風 裏：菊二鶴図屏風」
- ・沖一峨 「花鳥図」
- ・織田瑟瑟「江戸法来寺桜図」
- ・酒井抱一「白梅鶯・紅葉鹿図」

2. 千葉市美術館

4月6日から5月20日まで開催された「百花繚乱列島－江戸諸国^{うまいもん}絵師めぐり－」展に特別協力として「酒井抱一 大文字屋市兵衛像」ほか18点の所蔵品、寄託品を出品しました。会期中の来館者数は11,278人でした。

3. 川越市美術館

4月28日から6月10日まで「板橋区立美術館コレクションによる 日本のシュルレアリスム展」に特別協力として「小牧源太郎 生誕譜No.1」ほか59点の所蔵品を出品しました。会期中の来館者数は4,726人でした。

4. 群馬県立館林美術館

9月15日から12月24日まで「時代に生き、時代を超える 板橋区立美術館コレクションの日本近代洋画 1920s－1950s」展に特別協力として「芥川（間所）紗織 女」ほか111点の所蔵品、寄託品を出品しました。

板橋区立美術館大規模改修について

1 これまでの経過

平成 29 年 11 月 7 日 (火)	区議会区民環境委員会において説明
” 12 月 9 日 (土)	美術館アトリエ利用者懇談会において説明
” ” 11 日 (月)	成増支部町会長会議において説明
平成 30 年 4 月 1 日 (日)	収蔵品 (古美術) 千葉市美術館へ仮移転完了
” 6 月 8 日 (金)	収蔵品 (近現代) 民間美術品倉庫へ仮移転完了
” ” 17 日 (日)	事務所仮移転完了
” ” 20 日 (水)	建築工事契約
” ” 21 日 (木)	工事着手

※毎月第 1 金曜日に工事総合定例会議を行っている

現在、外壁補修工事及び内装工事

2 これからのスケジュール

2019 (平成 31) 年 4 月	展示ケース設置工事開始
5 月末	改修工事竣工
6 月上旬	事務所移転

※所蔵品の移転は、近現代 7 月中、古美術 10 月頃を予定している

6 月 28 日 (金) リニューアルオープンレセプション予定
「2019 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」開催

3 施行事業者

・ 建築工事	立花・古川建設共同企業体
・ 電気・給排水設備工事	新分・平田建設共同企業体
・ 空気調和設備工事	アネス・富士川建設共同企業体
・ 展示ケース設置工事	コクヨマーケティング株式会社
・ 新設昇降機設備工事	フジテック株式会社
・ 工事監理委託	(株)柳学アーキテクツ

板橋区議会で出された美術館に関する主な意見等（要約）
（平成 29 年度～30 年第 3 定例会まで）

意見等	区の考え方
<p>リニューアルを機に、展示の 3 本柱である絵本、池袋モンパルナスを中心とした近現代、江戸狩野派に代表される古美術以外にも、展示のバリエーションを持たせてはどうか。</p>	<p>永年にわたって 3 つの柱で展覧会を開催し、美術資料も収集してきた実績を今後もうまく活用していく。</p>
<p>なぜ、板橋区の美術館が狩野派を収集・展示しているのかわからないという美術の専門家がいる。狩野派を美術館の柱とすることをやめるべき。</p>	<p>板橋区が現在の地に美術館建設を計画したとき、都心の美術館では見ることができない、板橋区の赤塚まで足を運んでいただけるものを収集し、展示していこうと考えた。板橋が旧中山道における日本橋から最初の宿場町であった街道文化に着目し、江戸文化の古美術、とりわけ当時まだどの美術館も注目していなかった幕府御用絵師の狩野派にいち早く着目して収集方針を立て、これまで展覧会等で実績を積み重ねてきたところである。</p> <p>切り口の斬新さや歴史に埋もれた絵師の掘り起こしなど、他にはない試みが特色として内外に注目されており、今年はロシアのプーシキン美術館で開かれている「江戸絵画名品展」にも出品している。</p> <p>収集・展示の方針については、平成 26 年の「美術館のあり方検討」において確認したものであるが、今後も美術館運営協議会の意見を踏まえながら、板橋らしい美術館をめざしていく。</p>
<p>模写フリーを美術館の特色として出していくべきと考える。</p>	<p>従来から、美術作品鑑賞の敷居を低くする様々な試みを実施してきた。</p> <p>小学生鑑賞教室では、児童が作品の模写を行っており、一般観覧者についても、著作権の関係等で禁止している作品を除いて、基本的に模写を許可している。</p> <p>今後も、他の観覧者に迷惑のかからない範囲で、他館の状況なども研究しながら、模写を含め、美術鑑賞の敷居を低くする様々な特色ある試みを検討していく。</p>
<p>2 階展示スペースの借景が見える窓ガラスは残してほしい。</p>	<p>第一展示室と第二展示室の拡充ということで考えたときに、展示環境上、やはり光が入るのは余り好ましくない。ガラス窓をもし残そうとする場合、建築基準法上の問題があり、隣地境界から 5 m 以内の場所にある今のガラス部分は、火災の際の延焼防止の観点から、網ガラスにしなければならなくなり、印象上も余りよくないという問題もある。また、土砂災害の警戒区域にも当たっているため、壁面にして展示環境を整えることとしたところである。</p>
<p>カフェの常設を求める。カフェを障がい者の働く場として提供するとともに、併せてスマイルマーケットのような障がい者のマルシェ（障がい者の自主製品販売所）の配置を求める。</p>	<p>常設展のない美術館で周辺が住宅地である立地環境や、増床できないスペース上の問題などにより、カフェを常設で設置することは難しい。</p> <p>しかし、休息できるラウンジを 1 階入口付近に設置する予定であり、展覧会開催期間中、その場所において何らかの形で飲み物が提供できるよう検討している。</p>
<p>改修に併せて駐車場の整備としっかりとした管理を求める。</p>	<p>改修に併せて、駐車場用地を貸し付け、民間事業者による整備・管理運営を予定している。</p>